

ハナノキ



雌花



春



秋

ハナノキ（花の木）はムクロジ科カエデ属の落葉高木。樹高は30mに達する。雌雄異株。冬芽は濃紅色になる。花期は4月で、葉が展開する前に赤い花を咲かせる。日本固有種で、長野県南部・愛知県北東部の3県境のおもに木曾川流域の山間湿地に自生し、長野県大町市の居谷里湿地。滋賀県の天然記念物に指定されて、川や湿原などの湿地。自生地から移植されたものと考えられている。自生地などが国の天然記念物に指定されている他、愛知県の木ともなっている。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。應聖寺のハナノキは樹齢約100年、兵庫県西部地域に生育している経緯は不明です。春は深紅の花、晩秋には綺麗な紅葉を見せてくれるハナノキを大切に守っていきましよう。

花の寺 應聖寺